外語ビジネス専門学校
2022 年（令和 4 年）度
学校関係者評価報告書

基準日＝令和 5 年 3 月 31 日

学校法人　深堀学園

外語ビジネス専門学校

作成日＝令和 4 年 7 月

学校法人深堀学園　外語ビジネス専門学校
学校関係者評価報告書について

外語ビジネス専門学校（College of Business and Communication：以下 CBC）は、設立当初より全学生に毎年、全ての教科・教員、学校に対してのアンケートを実施するなど、常に自己点検・向上に努めてまいりましたが、2012 年に「専修学校における学校評価ガイドライン」の指標に沿い、学校関係者評価を行ってから今年で 6 年目となります。

本校では、基準項目ごとの統一評価書の評価欄をそれぞれ 4 段階（適切：４、ほぼ適切：３、やや適切：２、不適切：１）で評価を頂いております。

そのうえで、基準項目ごとの統一評価書の下部に学校関係者の方からのコメントを基に【学校関係者評価改善の方策】をまとめ、「自己評価」に対する総評として「学校関係者評価」を記載しております。

学校法人深堀学園　外語ビジネス専門学校
理事長・学校長・学校評価委員会委員長 深堀　和子

学校関係者評価委員会　委員

斎藤　文夫	一般社団法人　神奈川県観光協会　会長 一般社団法人　川崎市観光協会　会長	関係業界役員
田中　和徳	全国高等学校定時制通信制教育振興会　副会長 神奈川県高等学校定時制通信制教育振興会　会長	高等学校関係者
西岡　浩史	川崎商工会議所元会頭、名誉顧問 慶應義塾大学　評議員	関係団体有識者
堤原　康之	独逸機械貿易株式会社　代表取締役	関係業界役員
濱　志津子	税理士法人 M&S 総合会計事務所　代表社員 (横浜地方裁判所 川崎支部　調停委員)	財務有識者
有田　奈々子	2012 年度卒業生 義勇海運株式会社	本校卒業生
金沢　彩子	アイメックス特許事務所	弁理士
服部　雅江	駅前本町婦人部　監査 社会福祉協議会　理事	地域関係者
三塚　豊子	川崎中央第一社会福祉協議会　理事 駅前本町婦人部　部長	地域関係者

目次（点検項目一覧）

１．教育前提/基盤について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

(1)教育理念・教育目的・育成人材像について

(2)学校の特色について

２．本年度(２０２２年度)の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

３．各学科におけるカリキュラム(２０２２年度)の方針と年度末における報告・改善・・・・3

4. 評価項目の達成と取組状況（統一評価書による自己評価）

基準１．教育前提/基盤・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

基準２．学校運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

基準３．教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

基準４．教育成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

基準５．学生支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

基準６．教育環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

基準７．学生の募集と受け入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

基準８．財務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

基準９．法令等の順守・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

基準１０．社会貢献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

基準１１．国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

基準１２．学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果基準・・・・・・・・・15

1. 教育前提/基盤について

(1)教育理念・教育目的・育成人材像について

1948 年の建学以来、「ボーダレスに活躍するための国際力・共生力の育成」を理念に、国際コミュニケーション能力の育成を通し、各国における産公学の最前線で活躍できる、品格ある人材育成に取り組んできました。近年は、英語力を基盤に貿易/ホテル/観光/ICT&メディア等の最新のスキルを併せ持った専門職業人の育成を通して、微力ながらも地域の産業ニーズに応えています。高等教育複線化を構成する教育機関として、社会のリカレントニーズの高まりを受け、2012 年春の文科方針に応えるべく、いち早く単位制に取り組み、多様化する学習者ニーズに応える体制を整えました。修学後の進路も、就職・転職/大学・大学院編入/留学など、学習ニーズと産業ニーズの双方に対応し、今後も社会構造の大きな変化があってもしっかりと存在感のある仕事（役目）が果たせる人材育成に力を尽くしていきます。

(2)学校の特色について

① 国際コミュニケーション力の育成
② 時代の変化に対応する先端をいく教育体制
③ 丁寧なキャリア・カウンセリング（履習・就職・転職支援）

2. 本年度（2022年度）の目標

① 英語科目を 10 レベルにわけ、尚且つ TESOL を保持するネイティブ常勤講師を増員して、学生の英語力向上に努めて参ります。
② 学校内スピーチコンテストをレベル別にし、多くの学生に英語での発表の機会を与えるようにして参ります。
③ 各学科の専門科目においては、企業様のご意見を反映させたカリキュラムへと一層工夫いたします。
④ 教育訓練給付金及び公共職業訓練を活用するリカレント教育を望む方に対しても、満足できる教育を提供して参ります。

3. 各学科におけるカリキュラム（2022年度）の方針と年度末における報告・改善

国際 ICT・観光学科	（方針・報告） ➢ 就職においては、IT 企業とビジネスホテルへの就職が実現いたしました。また、インターンシップを活用し、就職を決めた学生もおりました。就職に向けて、資格取得を目指す学生が増え、IT 資格やマナー資格の受験者が増えました。観光に軸を置く学生も、IT スキルを持っているため、就職の際の強みになりました。今後も４年課程の強みを活かし、幅広い就職の選択肢を示しながら、早期からの就職活動サポートに力を入れていきたいです。
	（改善） ➢ 他の専門学校を卒業して「専門士」を取得している学生に 3 年次編入という形で審査の上入学許可を与えて、次年度以降はより多様な学習者層の入学者向けに広報活動を広げてきます。 ➢ 留学生においては、4 年間という期間を通じて日本企業への就職が可能なように「職業体験（インターンシップ）」の強化を行うことで企業に学生の良さを理解して頂ける機会を増やしていきます

グローバル ICT 学科	（方針・報告） ➢ 卒業生については、就職が堅調で IT 業界のみならず IT を利活用する企業への就職も含めて堅調でした。また、在学中に留学へ行く学生も半年に 2 名程度ずつですが堅調に推移しました。また、大学編入も第 1 志望への編入が 3 名と学科内に 3 コースあり、「入学後にコース選択ができる」という点においても「専門留学・大学編入コース」にふさわしい結果が出ました。過去、最大数の卒業生を送り出す中で、希望通りの就職先を確保させることが留学生も含めて出来ました。 ➢ 副担任をおいたこともあり、学生の満足度も高まり広報的は「学科公式 YouTube」を開設するとともに学生自身に日常の動画を撮影させるなどして、次年度以降も学科の魅力を動画コンテンツを活用して参ります。
	（改善） ➢ 日本人への就職指導はもちろん、IT 企業においては日本語能力試験において N2 程度のスキルがあれば積極的に採用する企業が多いことから国内の高校に在籍する海外に繋がる生徒の募集強化も検討していきます。 ➢ 社会人の学び直しについて、この分野は注目されていることからこの層に対する広報活動を強化して参ります。

国際ビジネス学科 貿易・航空ビジネスコース	（方針・報告） ➢ 主たる就職先を物流関係としていることから、業界のしくみ、会社ごとの仕事の範疇、業務内容を理解し、就職活動に生かせるよう取り組みました。フォワーダー、エアカーゴ、国際物流企業の方にお越し頂いての講話、卒業生による就職活動報告、校内会社説明会の実施、川崎港コンテナーターミナル見学、羽田空港航空貨物地区見学などを実施しました。 ➢ JAFA に加盟しての IATA ディプロマ試験実施も 2 年目となり、オンラインでの実施に関する体制を整えることで、学生への負担を減らし、Distinction での合格者を増やしました。IATA ディプロマ危険物コースのオンライン試験は初めての取り組みでしたが、無事に実施することが出来ました。 ➢ 予想された通り、コンテナ不足やコロナによる労働力不足から、海運業界は打撃を受け船舶運賃の高騰があり、輸送が航空貨物に流れ込みました。学生達の中にも IATA の勉強を通してエアカーゴに興味を持つものが増え、この業界への就職数が増加しました。 ➢ 貿易シミュレーション授業は、円安の影響があったものの、新しい講師により円滑に進めることが出来ました。

	（改善） ➢ 引き続き業界で求められている国際物流の知識を深め就業先で早期に戦力となり得る人材の育成を目指しています。
国際ビジネス学科 英語コミュニケーションコース	（方針・報告） ➢ 卒業生については、例年同様に 2 年間で TOEIC のスコアを 300～400 点伸ばした学生が多数おりました。コースの特性上将来の希望が曖昧な学生が多い傾向にありますが、授業内で自己分析や企業研究を行う時間を多く取り、こまめな面談を通して企業の採用活動開始前から方向性を定めさせるよう努めました。COVID-19 の影響で特にサービス業界は厳しい採用状況となりましたが、早期から活動し、航空業界から内定を勝ち取った学生もおりました。その他ホテルやカーディーラー、不動産等多岐に渡る業界へ卒業生を送り出す事ができました。
	（改善） ➢ 漠然と「英語を学べば将来に役立つのではないか」という考えで入学する学生も多い為、学習の目的が英語力の向上に留まらないよう、その先の就職を見据えられるような教育を行います。具体的には英語を活かせる働き方を幅広く例示した上で職業について自身で調べる・考える時間を多く設け、担任からのカウンセリングを重ね、インターンシップ等を活用する事で一年次の内に将来の姿を具体的にイメージさせ、スムーズに就職活動を開始できるような態勢を整えます。
ホテルブライダル観光学科	➢ 入学時に就職分野が曖昧な学生が多いため、3 分野を満遍なく学習し適性を見極められるようカリキュラムを作成、実行しました。ホテル分野は、コロナ禍で縮小していたインターンシップや現場見学を再開しました。特にインターンシップでは、実習先を拡充することからはじめ、結果リゾートホテルやビジネスホテルの実習に複数人が参加しました。ブライダル分野は、模擬ブライダルに 1 年生も参加し、日々の授業内容のアウトプットの機会を設けました。また観光分野は、「旅程管理主任者」のバス研修を数年ぶりに実施しました。山梨で研修ができたことは学生からも好評でした。求人数はコロナ前に戻りつつあり、分野に関わらず就職活動はおおむね好調であり、複数社内定した学生もおりました。今後も実習を多く取り入れたカリキュラムと就職実現のためのキャリアサポートを考えてまいります。
	（改善） ➢ 企業が求める英語力・サービススキル・資格の取得はもちろん、AI 普及によるマーケットの更なる進化を見据えながら、論理的な課題設定・課題解決ができる人材を育成するべく、企業との連携授業やインターンシップを強化し、現場での実践力を鍛える授業を展開していきます。

ビジネス日本語学科	（方針・報告） ➢ 今年度も対面授業を基本とし、学生の感染状況に応じて一部でハイブリッド授業を行いました。授業では、ビジネス対応を含めた日本語力および専門的知識の定着と更なる向上を目指しました。また、JLPT（日本語能力試験）、BJT（ビジネス日本語能力テスト）、ビジネス能力検定、ビジネス文書検定、秘書検定、日商簿記など資格取得に向けて学習を積み重ねました。 ➢ 2 年生は学修の集大成として、ハイブリッド形式による卒業制作発表会を 3 月に行いました。発表会以前に個別の学修内容の発表練習を学期ごとに実施しており、発表会にもスムーズに取り組むことができました。来賓の企業様には対面またはオンライン形式でご出席いただき、評価をいただくことができました。 ➢ なお１年生も翌年の卒業制作発表会に備えてスピーチやプレゼンテーションに力を入れ、グループによる企業研究発表をクラス内で実施しました。
	（改善） ➢ 専門科目においては、経済社会の基礎の定着を図った上で、単なる知識としての科目とならぬよう、現代を取り巻くニュース・新聞記事を取り上げ、「経済社会」の一員としての視野を広げていきます。 ➢ より実践的な授業を取り入れるために「インターンシップ」「特別講義」「課外活動」「卒業発表ビジネスプレゼンテーション」等を今年度も続け、仕事上必須のコミュニケーション能力を高めています。

【学校関係者の方のコメント】

〇専門職というのは企業にとって貴重な存在です。ぜひ、その貴重な存在であることの強みを対外的に伝えていくことが大事です。大学を単に卒業したことよりもしっかり専門的な勉強してきたという差別化が図れるようなカリキュラム策定をしていかれるとよいと思います。

〇貿易関連でいえば、地元の川崎港は脚光を浴びつつあります。これからコンテナを置く場所などの確保が課題ではあるが、これからますます雇用が生まれる下地がありますので、学生にはしっかりと勉強をして欲しいと思います。

〇観光関連では、全国でインバウンド需要が加速しており、訪日観光客の数は 2020 年オリンピックの年 4000 万人と言われていましたが、おそらく予想以上に増加していると考えられます。それだけに、川崎駅北口に行政センターと合わせて観光案内センターができましたので、学生の皆様方にボランティアとして手伝って頂けるような機会を提供できればということを学校関係者委員としては考えております。

【評価改善の方策】

〇ご意見を踏まえて、次年度以降も業界や企業のニーズをとらえた職業人教育を各学科とも行ってまいります。

4. 評価項目の達成と取組状況（統一評価書による自己評価）

全ての評価について、適切・・４、ほぼ適切・・３、やや適切・・２、不適切・・１としている

基準１：教育理念・目標		学校関係者評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか）	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

【学校関係者の方のコメント】

○グローバル化がさらに進むこれからの時代、国や文化が異なる人々と共生し、世界と対等に渡り合っていくために、コミュニケーション手段として「使える」英語など語学の活用が、今まで以上に求められています。外語ビジネス専門学校は、『地域の国際交流拠点』として、その役割が増していると思います。高校を卒業した学生への職業教育はもちろんですが、政府が進める「社会人の学び直し」にも積極的に取り組んでいることは、素晴らしいことだと思います。

○理念や目標がしっかりと示されていて、非常に充実した教育環境だと思います。逆に良すぎて、中小企業にとっては、最先端の技術を社内に取り入れるのが人材的にも難しいと思います。このような恵まれた環境にいると、学生はそれが当たり前と思うかもしれませんが、これが当たり前と思ってほしくないです。最先端のスキルだけではなく、中小企業等でも活用できるようなすそ野が広がるような教育にも目を向けて頂ければと思います。

【評価改善の方策】

○ご助言内容を踏まえて各学科などの教育目標や育成人材像の検討に役立てて参ります。

基準２．　学校運営	学校関係者評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する規定などは整備されているか	4
教務・財務などの組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

【学校関係者の方のコメント】 ○学校運営については、適切に行われていると思います。
【評価改善の方策】 ○ICT を利活用することでより効率的な学校運営に繋げていくようにいたします。

基準３．　教育活動		学校関係者評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育課程レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3	学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設などや業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
１０	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
１１	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4
１２	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）の提供先を確保するなどマネージメントが行われているか	4
１３	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
１４	職員の能力開発のための研修などが行われているか	4ｓ

【学校関係者の方のコメント】

〇各学科におけるカリキュラムの方針と年度末における報告・改善でこの内容がよくまとめられていて、委員会でも丁寧に説明がありました。適宜方針を見直され、よりよいカリキュラムを提供していってください。

〇これから少子化時代が加速する中で、大学も全国に数多くありますが廃校になる大学も出てくると思います。そのような時代に、学校として生き残るために必要なことは、優秀な留学生に入学してもらい、しっかりとした日本の企業に就職するための職業教育を行うことです。

〇今後、団塊の世代が 70 歳を超え段階ジュニアの世代が 50 歳を目前とする中、公務員なども 60 歳定年を 65 歳にして、民間企業も 70 歳にすることが時代の流れとしてあります。このようなリタイアされた方たちへの再教育することなど積極的に考えていかないと、学校として存続そのものが難しくなると思います。今日のようにご発展を遂げられたように、我々委員としてはぜひ、学園として発展していくための将来構想を「現状打破」の精神のもと検討して言って頂ければと思います。

【評価改善の方策】

〇頂いた意見をもとに現状に満足することなく、より多くの方に本学園の良さを伝えられるようカリキュラムなどを検討して参ります。

基準４．教育成果		学校関係者評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

【学校関係者の方のコメント】
〇政府は就職氷河期世代の就労を後押しするため、施策の司令塔となる「支援推進室」を内閣官房に設けました。バブル経済崩壊後に高校や大学を卒業した30歳代半ばから40歳代半ばの人材について、正規雇用での就労を促すためです。今後もこのような形で、多様な世代への教育活動を進めていけばよろしいかと思います。
〇就職について、とても良好であるということ報告があった通り、しっかりしたカリキュラムを設定しているこの学校の学生であれば、企業は欲しい人材であると思います。

【評価改善の方策】
〇キャリア支援センターを中心に企業情報などを的確に学生へ指導出来るようにして参ります。

基準５．学生支援		学校関係者評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
１０	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

【学校関係者の方のコメント】
〇政府が取り組んでいる「大学等における修学の支援に関する法律」により神奈川県が確認機関となる修学支援（いわゆる高等教育無償化）の対象となっているとういことで、学費が理由で進学を断念する若年者を一人でも減らして頂ければと思います。
〇神奈川県の定時制・通信制の学生を支援しようという「定通教育振興会」の制度で多くの高校生に希望を与えていましたが、定時制・通信制においては多様な生徒が多く在籍しています。日本国籍を持つ生徒はもちろん、永住ビザや定住ビザをもち日本の高校に通っていた生徒が貴校へ多く入学されていると聞いております。これからも振興会の制度を活用して頂ければと思います。

【評価改善の方策】
〇これからも高等教育を受けることを希望する学生が、学費を理由に断念することがないように各種支援制度を充実させると共に、広く周知して参ります。

基準６．　教育環境		学校関係者評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4

【学校関係者の方のコメント】
〇Wi-Fi 環境をより充実させて学生にとっては、過ごしやすい環境になるための工夫をしていることが伺えます。今後も学生のために、よりよい環境を提供して頂ければと思います。

【評価改善の方策】
〇頂いたコメントをもとに教育環境を整えて参ります。

基準７．　学生の募集と受け入れ		学校関係者評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4

【学校関係者の方のコメント】
○時代が学園の掲げるグローバル人材を求めていると感じます。ぜひ、募集人員を増やすことを考えられていくとよいと思います。
○社会人の学び直しを行う国の方針などを改めて知り、就職氷河期世代の一員として同世代の方に頑張って勉強して欲しいと思います。また、この学園にはその方たちに寄り添って頂けるよう幅広く受け入れて頂ければと期待します。

【評価改善の方策】
○募集活動（広報）の在り方などを検討し、幅広い世代に教育内容などを伝えられるよう今まで以上に積極的に取り組んで参ります。

基準８．　財務		学校関係者評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

【学校関係者の方のコメント】
○例年通りですが、財務も含めて、ウェブに対して外語ビジネス専門学校は情報公開をしており適切に対応されています。

【評価改善の方策】
○ 経営企画室などで中長期計画に基づいて、適切な財務計画を作成して参ります。

基準９．　法令等の順守		学校関係者評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4

【学校関係者の方のコメント】
○情報公開なども含めて適切に対応されていると思います。
○ウェブなどへの公開も制度の趣旨に基づいて分かり易く公開されていると思います。

【評価改善の方策】
○今後も適切な形で法令等を順守すると共に、適切な形で自己評価を公開して参ります。

基準１０．　社会貢献		学校関係者評価
1	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

【学校関係者の方のコメント】
○昨年度の委員会で指摘させて頂いた、日曜日など検定実施をする際の対応で警備員などの配置を強化して頂けるなど対応をしっかりとして頂きありがとうございます。
○教育連携をしている浅草観光連盟主催の「浅草灯篭流しに通訳ボランティアで学生が参加して通訳はもちろん、広報動画を作るなどしたことは貴重な体験をされていると思います。

【評価改善の方策】
○今後も地域の国際交流拠点として、活動をしっかりと行っていきたいと思います。

基準１１　国際交流		学校関係者評価
1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
2	受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
3	学習効果が国内外で評価される取組を行っているか	4
4	留学生の学習・生活支援等について学内で適切な体制が整備されているか	4

【学校関係者の方のコメント】
○基準 10 とも被りますが、外語ビジネス専門学校の特徴をいかして積極的に取り組んでいっていただければと思います。
○国際交流については、川崎の町で外国の方を見かけた際に「May I help you」と気軽に声掛けられる文化をこの学園の学生が作りだせるようになって頂ければと思います。

【評価改善の方策】
○これからも積極的に取り組んで参ります。

■基準12. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価結果につきましては、各項目において改善すべき点もありますが、47 項目の全てが標準的な水準以上にあると判断いたしました。現在、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度がスタートし、本校といたしましては、今まで以上に教育課程編成委員会などを通して産業界のニーズを適切に反映させてまいります。また、「理論と実践の架け橋による職業教育の充実」を図るとともに、単位制のフレームを活用して「社会人の学び直しや多様な学習ニーズ」への対応を強化していきます。以上のことから、総合評価は「4」といたします。

【学校関係者の方のコメント】 ○今年度もしっかりとした自己評価を作っておられ、学校関係者評価委員としても安心です。 ○政府の方針や企業の方針なども踏まえて、「人＝人財」という視点を忘れずに、今後も「魅力的な職業人」を育成していっていただければと考えます。
【評価改善の方策】 ○ご意見を頂いたことを参考に学園全体が発展していけるよう努力して参ります。